

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K19166

研究課題名（和文）養育態度尺度日本語版開発と親の適切な養育を支援するコミュニティベース参加型研究

研究課題名（英文）Development of the Japanese version of Parenting Styles and Dimension Questionnaire and community-based participatory research to support appropriate parenting

研究代表者

戸部 浩美 (Tobe, Hiromi)

東京大学・大学院医学系研究科（医学部）・特任講師

研究者番号：60823143

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：親の養育態度は、子どもの成長発達や親子心身の健康にも長期的で多大な影響を及ぼす。親が不適切な養育を避け、適切な養育を行えるようになるためには、自身の養育態度を見直し、子育てを通して自身と向き合い、自己を成長させる機会とできるような、地域に根差した支援が必要である。そこで、本研究では、効果的な育児支援を導き出すことを目標に、養育態度尺度日本語版を開発し、適切な養育方法を学び訓練するためのプログラムを地域で活用するシステムを構築し、コミュニティを基盤とした参加型リサーチ Community-based Participatory Research (CBPR) を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本邦では養育態度の様々な側面を網羅的にアセスメントできる尺度がこれまで存在しなかったため、研究・実践においても非常に限られた側面しかとらえられなかったが、本研究において作成された養育態度尺度は不適切なものだけでなく適切な養育態度も含み、心理的コントロールを含む世界的にも新しい内容である。親の養育態度と子どものアウトカムの関連を示し、現在の日本の養育と養育が子どもの性格に与えている影響について非常に有益な示唆を与えるものである。研究結果を元に地域の保健師や親に対して、育児支援、あるいは親自身のセルフケアを促す活動につなぎ、今後出版を通して広めていけることから社会的な意義が高い。

研究成果の概要（英文）：Parenting attitudes have a significant and long-term impact on the growth and development of children and the physical and mental health of both parents and children. For parents to avoid inappropriate parenting styles and provide appropriate parenting, community-based support is needed to enable them to review their child-rearing attitudes and provide opportunities to face themselves and develop themselves through child-rearing. In this study, with the goal of deriving effective child-rearing support, we developed a Japanese version of the child-rearing attitude scale, built a system to utilize programs in the community to learn and train appropriate child-rearing methods, and conducted community-based participatory research, Community-based Participatory (CBPR).

研究分野：家族看護学分野

キーワード：養育態度 地域参加型研究 子育て支援

## 1. 研究開始当初の背景

親の養育態度は子どもの身体的、精神的、社会的発達とそのウェルビーイングに生涯にわたって極めて重大な影響を与える。核家族化が進み、子どもと接する機会も少ない中、子育て世代のストレスは大きく、子育てに負担を感じる者も多い。適切な養育態度について学び、訓練する機会が与えられていない状況であり、またその指針も明確には示されていない。

また日本にはネガティブな養育態度を測る尺度しかなく、ポジティブで適切な養育態度を測る尺度がない。親の適切・不適切な養育態度を測る尺度を開発することにより、養育態度と子ども、親、また親子の関係のアウトカムの関連を研究することにより、より適切な養育態度を促し、不適切な養育態度を改善する一助となる。また親に対する介入の効果を的確に測定することができる。それにより、エビデンスに基づいた育児プログラムを開発し、地域に広めていく一助となる。

## 2. 研究の目的

効果的な育児支援を導き出すことを目標に、養育態度尺度日本語版を開発し(目的 )、適切な養育方法を学び訓練するためのプログラムを地域で活用するシステムを構築し、コミュニティを基盤とした参加型リサーチ Community-based Participatory Research (CBPR)を行うこととする(目的 )

## 3. 研究の方法

### 養育態度尺度開発

アメリカで開発された Parenting Styles and Dimension Questionnaire の開発者の一人である Craig H. Hart 教授 (Brigham Young University) 他数名の研究者とともに、日本語版尺度の内容を検討し、オリジナル版には含まれない心理的コントロールについても新たに検討し項目を追加した。

数名の研究者で日本語に訳し、逆翻訳も含め、日本語と英語に長じた様々な専門家による検討プロセスを経て、日本語版の項目を確定した。

### 質問紙調査

3歳から15歳の子どもを一人以上育てる母親・父親合計607名の協力を得て、質問紙調査を行い、養育態度尺度の信頼性・妥当性の検討を行った。同時に、子どもの性格についても尋ね、養育態度と子どもの性格の関連について検討した。

### 地域との連携

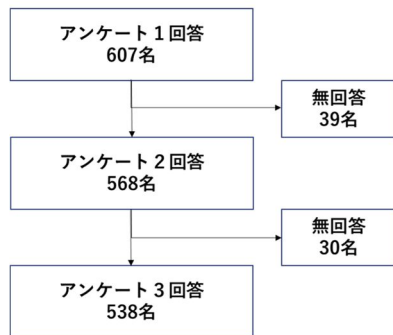
国内数か所の地域の保健センターの保健師や心理士、小中高校の教員、保育園・幼稚園・こども園の保育士、不登校支援に携わる市町村職員、育児支援に携わる地域住民、育児中の親、その他の市民に対して子どもと家族のレジリエンスを高める関わりについて講演会やワークショップ、勉強会を開催し、それぞれの立場における課題やニーズ、今後の希望や計画について意見を交換した。

## 4. 研究成果

### 質問紙調査結果

オンラインアンケートにて、以下の通り回答があった。

#### 質問紙回答状況



詳細な結果、尺度項目、関連の結果については論文投稿中のため、論文が受理され、掲載されるまで非公開とする。

#### 地域連携

地域との連携については、約7,000名の市民、育児中の親、サポーター、医療者、教育者、保育者に対して、ワークショップや講演、勉強会を提供し、それぞれの活動と連携した。

中でも、静岡県三島市における長年の取り組みについては、医学書院発行の保健師ジャーナル2022年12月号で特集され、その記事の影響によって、さらに多くの保健センターとの連携が開始された。

一連に取り組みに基づいた知見を子育てガイドブックにまとめ、2024年初めに医学書院から発行予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hiromi Tobe, Sachiko Kita, Mayu Hayashi, Kaori Umeshita, Kiyoko Kamibeppu	4. 巻 102
2. 論文標題 Mediating effect of resilience during pregnancy on the association between maternal trait anger and postnatal depression	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Comprehensive Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.comppsy.2020.152190	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hiromi Tobe, Mariko Sakka, Sachiko Kita, Mari Ikeda, Kiyoko Kamibeppu	4. 巻 19
2. 論文標題 The Efficacy of a Resilience-Enhancement Program for Mothers Based on Emotion Regulation: A Randomized Controlled Trial in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 14953 149723
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph192214953	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Hiromi Tobe
2. 発表標題 Community-Based Participatory Research in Enhancing Resilience of Childrearing Families in Japan
3. 学会等名 International Family Nursing Conference 2023（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 スーザン・ボーゲルズ、訳者：戸部浩美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 忙しいお母さんとお父さんのためのマインドフルペアレンティング:子どもと自分を癒し,絆を強める子育てガイド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------